

特支教育では作業という学習があります。

私は作業は、ものづくりや労働を通じて人を育て人と繋がっていくものだと思います。

私は特支学校では木工・栽培・手芸・工芸の作業を指導してきました。それは別の機会に提示します。特支学級では作業にかかわるのは特支学級担任だけです。作業学習が必要だと思う時でも設備も協力体制もありません。

特支学校のように生徒の特性や指導の方向性を考えて作業班を選択することもできません。私が特支学級で作業も含めて制作活動として行ってきたのはアニメ・アプリ制作、演劇活動、短期的木工制作、手芸制作です。

この場では手芸制作のビーズストラップ作りを提示します。実態把握で生徒の特性をリサーチして、適切な生徒と制作活動を行ってきました。4学級ほど行いました。

この制作の利点は

同じ工程の作業を何度も繰り返して完成させる活動であること。特支学級で設備と高額な材料調達が難しくても活動可能なことでした。

私は養護学校の作業でも同様の作業をしていました。最初に運用したときは情緒に課題がある特支学級での活動でした。

落ち着いて一定時間活動することが難しいケースで、安全に、安定した活動にすることが求められました。

作業量を記録していました。青のラインを見てください。

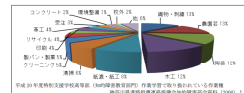
作業はできるのですが、毎回の作業量が安定せず、できる時と出来ない時の差が大きく課題となりました。意欲を持たせるための自分でビーズの色を選び組み合わせて設計するアプリを開発し自分で設計したストラップを制作するため 設計活動を取り入れました。

作業

中学部・高等部

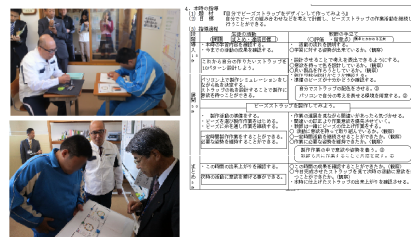
職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容

専門学科の内容を中心



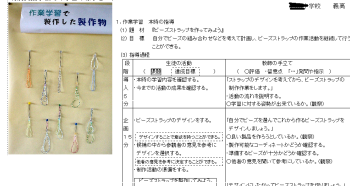
私自身は栽培・木工・手芸・工芸

の作業学習を指導した経験



作業 ビーズストラップ制作

特別支援学級での学習の様子① 作業学習のありかた



作業 ビーズストラップ制作

- ・同じ工程の作業を繰り返して完成
- ・容易に設備と材料が調達できる

そして赤のラインが自分で設計したストラップを自分で制作した作業量です。

作業量が増えて、特に日々の乱高下が少なくなり、作業活動が安定してきたのがお分かりになると思います。

この時の報告書と作業の指導案です。授業参観で公開もしています。

設計アプリで自ら設計したものを制作する工程に効果があったと思われます。情緒に支援が必要な場合、指示されてやることに抵抗がある場合があります。自分で設計して作ることによって自主性と意欲を高め、活動を安定させることにつながったケースでした。しかし学校で活動すること自体が難しくなり、残念ながら学校での活動は中断することとなりました。長くなりますが、もう少しビーズストラップ制作の作業学習を考えてみましょう。

